

令和7年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】とんとんみー	【代表者】清水 菜々子 (人文社会学部2年)
【プロジェクト名】しーじゃとゆんたく～離島の高校生と大学生等との交流会～	
<p>【プロジェクト概要】</p>  <p>私たち「とんとんみー」は、沖縄県内の離島出身の大学生を中心に構成されたグループで、離島を訪れ、現地の高校生との交流を行うプロジェクトです。</p> <p>沖縄県内の離島には大学などの高等教育機関が設置されておらず、高校生が大学生と直接交流する機会が限られています。メンバーの一人が、高校時代に進路の相談をできる離島出身の先輩がいなかったことに不安を感じていたことが、この活動を始めるきっかけとなりました。</p> <p>県外大学の学生による講話の機会もありましたが、境遇や環境の違いから、受験や大学生活への具体的なイメージを持つことが難しかったそうです。だからこそ、「自分と同じ離島出身で、この人みたいになれるかもしれない」と思えるような存在と出会える場を作りたい——そんな思いでプロジェクトがスタートしました。</p> <p>この取り組みは、高校生の進路選択の幅を広げ、未来を描く手助けをするだけでなく、交流する大学生にとっても、自らがロールモデルとなる経験を通じて、それぞれの分野への学びの意欲を高めるきっかけになります。</p> <p>離島の高校生がより多様な選択肢を持ち、自分の未来を前向きに思い描けるよう、メンバー一同、心を込めて活動していきます。</p> <p>☆7月:交流会を開催する高校に事前アンケート実施、運営メンバー以外で参加する学生に対して説明会を開催。9月:交流会実施(八重山高校、久米島高校予定)。10月～交流会後の参加大学生の情報発信&高校生の進路相談をオンライン上で行う。</p>	

【チーム名】ちゅらラボ	【代表者】杉山 北斗 (理工学研究科1年)
【プロジェクト名】ビーチ×STEAM:砂浜から広がる学の連鎖	
<p>【プロジェクト概要】</p>  <p>沖縄の砂浜の砂の約98%はサンゴや貝などの生物由来であり、砂浜が形成されるには数百年の時間を要する。しかし、その科学的価値や生態的意義は十分に知られておらず、観光客や一部の地元住民による砂の持ち帰り行為が後を絶たない。このままでは、沖縄の貴重な自然資源が失われるおそれがある。</p> <p>一方で、近年は全国的に理科離れが深刻化しており、また学問分野の過度な専門分化によって、自然科学の全体像を俯瞰的に学ぶ機会が減少している。沖縄県内においても、子どもたちを中心とした地域住民が、地元の自然の尊さや科学的仕組みに触れ、考える場が十分に整備されているとはいいがたい。</p> <p>本プロジェクトは、こうした課題に応える形で、沖縄の海岸を題材とした理科教材を開発するものである。特に今年度は、これまで導入されることの少なかったプログラミング的要素を自然教材に融合させ、自然とデジタルという一見相反する分野を統合的に学べる教育手法を探求する。これにより、地域資源への理解を深めると同時に、子どもたちが自ら問いを立て、科学的に考える力を養う場を創出することを目指す。</p> <p>☆8月9日、10日:琉大内、屋外でのイベント(詳細はチラシ参照)</p>	

令和7年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】琉球大学 Robot サークル	【代表者】伊藤 満太郎 (理学部2年)
【プロジェクト名】モノづくり体験会	
<p data-bbox="113 309 427 353">【プロジェクト概要】</p> <div data-bbox="132 365 427 660">  </div> <p data-bbox="456 353 1481 521">私たちが取り組む地域課題は、沖縄県の小中学生が「ものづくり」に触れる機会を創出し、STEAM 教育を推進することにある。STEAM 教育が重要視される現代において、子どもたちが「つくる力」や「考える力」を育むことは不可欠である。</p> <p data-bbox="456 521 1481 600">この課題に対して、琉球大学 Robot サークルでロケット製作・打ち上げ、ロボット製作、プログラミングの三つの体験会を実施する。</p> <p data-bbox="456 600 1481 678">①ロケット製作体験会 モデルロケットの制作から打ち上げまでを一貫して体験してもらう。②ロボット制作体験会 弊団体が開発したロボット教材を使用し、ロボットキットの組み立てをしてもらう。③プログラミング体験会 マイコン「Arduino」を用いたプログラミングを通じて、参加者にプログラミングと制御の基礎知識を習得させる。私たちはサークル活動で培った専門知識と技術を活かし、子どもたちが科学技術とものづくりの楽しさに触れる場を提供する。子どもたちが安心して挑戦できる安全な環境を提供し、自ら考え、工夫し、形にする経験を通じて、想像力と問題解決能力を育むことを目的としている。</p> <p data-bbox="113 958 1481 1003">☆8月17日:ロケット製作体験会、12月:ロボット製作体験会9月20日:プログラミング体験会</p>	

【チーム名】i plus+(アイプラス)	【代表者】平良 有紗 (国際地域創造学部4年)
【プロジェクト名】「学習支援団体『I plus+』のブックバンク・プロジェクト ～『つながる本、ひろがる学び』～」	
<p data-bbox="113 1227 427 1272">【プロジェクト概要】</p> <div data-bbox="132 1283 427 1579">  </div> <p data-bbox="456 1272 1481 1933">私たちは島嶼地域である伊江中学校と津堅小中学校で教育支援活動を行っています。教育支援活動の拡充のための新たな活動としてブックバンクプロジェクトを実施します。ブックバンクプロジェクトとは、学生から不要になった教材などを回収し、それらを必要とする子どもたちへ届ける取り組みです。これまでの活動を通じて、島嶼地域は本島と比べて教材の整備やチューター、学習塾といった学習資源が不十分な現状があり、限られた学習環境で学ばざるを得ない状況です。また経済的・地理的な要因から、十分な教材を手に入れられない家庭も多く、本島の子どもたちと比べて学力だけでなく、学習の機会にも格差が生じています。加えて、身近なロールモデルがないことも課題の一つです。子どもたちは中学卒業と同時に島を離れるので、進学や将来について相談できる人が身近にいないという声があります。これらの課題解決に向けて本プロジェクトでは、教育支援活動を通じて学校を活気づけ、地域全体を元気にすることを目指します。活動の中で、協力校の先生方から学校が地域にとって重要な存在であることを伺い、地域の中心である学校を元気づけることが地域活性化の鍵であると実感しました。教育支援活動を通じてブックバンクプロジェクトを行うことで、子どもたちの学びの選択肢を広げ、学習の充実や学習意欲の向上に繋がりたいと考えています。</p> <p data-bbox="113 1955 1481 2085">☆7月から3月までの期間中に教材回収ボックスの設置、伊江中学校、津堅小中学校への教育支援活動(毎月2回を予定)、8月、12月の長期休暇に伊江中学校で教育支援活動(2泊3日を予定)、年度末に協力校との意見交換を行う交流会</p>	

令和7年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】 福木まもり隊	【代表者】 三浦 巧誠 (農学部3年)
【プロジェクト名】 備瀬区フクギ屋敷林の持続的管理に向けた剪定手法の開発	
<p data-bbox="113 309 427 353">【プロジェクト概要】</p>  <p data-bbox="454 353 1481 427">私たちは沖縄県本部町備瀬区にあるフクギ並木の持続可能な剪定手法の考案、及び地域への普及活動に取り組みます。</p> <p data-bbox="454 427 686 465">～フクギの機能～</p> <p data-bbox="454 465 1481 696">フクギ(福木)は幹がまっすぐで、肉厚な葉を密生させる木です。そのため風の影響を和らげる効果をもち、昔から屋敷林として好んで植えられました。住宅を台風から守る防風林や火災を食い止める防火林として、人々の生活を守ってきたのです。近年では観光資源としても注目され、フクギ並木特有の青々とした木々が整然と立ち並ぶ姿や暖かな木漏れ日が、多くの観光客を魅了しています。また、備瀬区のフクギには樹齢200年以上を超えるものが多く存在します。</p> <p data-bbox="113 696 1481 887">～地域課題～フクギの老朽化が進む中、剪定などの管理をしっかりと行うことでフクギを守っていく必要があります。しかし、住民の高齢化による管理放棄、過度な剪定(強剪定)及び都市開発のための除伐、台風による被害などによって、枯死や劣化に至るフクギは増加しています。枯死・劣化が進めば、先ほど示したフクギの機能を失うことに繋がり、環境、観光、経済、人々の生活にとって大きな損失となります。また、フクギを守りフクギに守られるという自然と共に生きる文化もなくなってしまいます。</p> <p data-bbox="113 887 1481 999">フクギ並木のもつ多面的機能を持続させていくには、機能バランスを重視した剪定手法の開発と、よりよい方法を地域全体で共有する体制が必要です。私たちのプロジェクトでは、これらを実現していきたいと考えています。</p> <p data-bbox="113 1021 1481 1290">☆9月:沖縄県本部町備瀬区フクギ屋敷林で現地の地域住民・区長・樹木医・園芸業者・観光客を対象にヒアリング調査を行う。10～11月:ヒアリング調査から得た情報や課題をもとに、フクギ並木の持つ多面的機能を重視した上でバランスの取れた剪定手法の策案を行う。また宜野湾市のフクギ屋敷林を対象に実施作業を行い、評価・反省を行う。11～12月:評価・反省を繰り返し出来上がった剪定手法のマニュアル作成と沖縄県本部町備瀬区にて地域住民を対象とした成果発表会を行う。R8年1月:フクギ屋敷林の課題に対するポスターを備瀬区地域内の掲示板にて掲示。観光客を対象としたフクギ管理ボランティアプロジェクトの設立。</p>	

【チーム名】 沖縄医療ゼミ	【代表者】 大城 光輝 (医学部6年)
【プロジェクト名】 沖縄医療ゼミ	
<p data-bbox="113 1480 427 1525">【プロジェクト概要】</p>  <p data-bbox="454 1525 1481 1608">沖縄には、医療資源の偏在や救急搬送の制約、制度運用の硬直化といった構造的な医療課題が存在します。</p> <p data-bbox="454 1608 1481 1776">本プロジェクトでは、医学生チームが主体となり、地域医療の構造課題を学び、議論し、可視化していく「沖縄医療ゼミ」と、異分野の若者とともに医療・公衆衛生について対話する「Okinawa GP Impact Forum (OGIF)」の2つを連動させて実施します。</p> <p data-bbox="454 1776 1481 1899">地域の医療者・行政職・学生・住民が交差することで、次世代の医療人材が地域とつながるきっかけを創出し、学びを地域に返す文化を育てていきたいと考えています。</p> <p data-bbox="113 1921 722 2007">☆7月～10月:沖縄医療ゼミ(全3回) 11月2日:OGIF本フォーラム(那覇市)</p>	

令和7年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】 チームめんそーれ今帰仁	【代表者】 内間 柚寧 (国際地域創造学部3年)
【プロジェクト名】 今帰仁フォトコンテスト～写真で探そう！地域の魅力～	
【プロジェクト概要】  <p>「今帰仁フォトコンテスト～写真で探そう！地域の魅力～」では、今帰仁村を舞台にしたフォトコンテストを通じて、これまで見過ごされてきた地域が持つ本来の魅力の再発見を促し、それによって今帰仁村が課題として挙げる素通り観光にアプローチすることを目的とするプロジェクトです。</p> <p>今帰仁村を含む沖縄県北部では、観光地間の移動のために観光地以外の地域を通り過ぎてしまうという「素通り観光」が課題として挙げられています。実際に今帰仁村では古宇利島や今帰仁城跡があり、そういった観光地に観光客が一極化しているという現状があります。第5次今帰仁村総合計画でも、村内の周遊を促す取り組みが必要だと明記されています。私たちはその素通り観光という課題が今ある地域の魅力が十分に伝わっていないことが要因で起こっていると考えました。</p> <p>そこで今帰仁村の魅力を再発見するためにフォトコンテストを実施します。フォトコンテストでは、思わずドキめいちゃった部門など写真を撮る場所や対象物を限定しない部門を設置します。そうすることで地元の方や観光で訪れた方が、地域の魅力を自らの感性で発掘することを期待します。</p> <p>☆8月～10月にフォトコンテストを実施予定</p>	

【チーム名】 外来生物対策伝え隊	【代表者】 江村 聡吾 (農学部3年)
【プロジェクト名】 琉大生、外来生物緊急防除を学ぶ	
【プロジェクト概要】  <p>沖縄県では、昨年度、外来害虫であるセグロウリミバエの定着が確認され、本年度には国による緊急防除対策が始まっている。農業従事者は出荷前の検査など対策の一端を担っているが、家庭菜園でのウリ科作物やパッションフルーツなどの栽培自粛については、一般市民に十分に知られておらず、理解も深まっていないのが現状である。</p> <p>このような背景のもと農業と関わる外来生物問題について一般市民や教育現場での認識が薄く、正しい知識を持って教えられる教育資源も限られているという課題が明らかになった。そこで、風樹館において沖縄県の外来生物対策に関する展示を強化し、その歴史的背景や現状を分かりやすく発信することで、市民の理解と関心を高めたいと思う。風樹館は大学の教育施設としてだけでなく一般市民の来館も多く、展示内容の充実は教育と啓発の両面で効果を発揮できる。さらに、駆除と並行して外来植物から抽出される精油を活用した抗菌スプレーや農業資材などの実用的な製品の試作を行うことにより、「駆除＝資源活用」という新しい価値観を提示し、外来種問題への市民の関心と参加を促すことを目指している。</p> <p>☆風樹館での展示</p>	